

令和4年度



3月 園だより



文京区立根津幼稚園

つながり続ける 根津幼稚園

園長 小岩井 聡

正門の桜のつぼみも、少しずつ膨らんでいます。枝の間を小鳥の音が響いています。季節は、着実に春に向かっていくことを感じます。この時期は、根津幼稚園では、うれしくもあり、寂しくもある時期であります。小学校に行く年長組と笑顔でお別れができるように、そして年長組は残していく後輩のために様々なことを引き継ぎ、バトンタッチしていきます。幼稚園の文化や伝統、生活が次の世代に受け継がれていく時間がそこにあります。

2月の誕生会は、今までほし組が受けもってきた「司会」という大役を、はな組が教えてもらい、一緒に行いました。はな組は、いつもは見ているだけの「司会」を自分たちで行うのですから、さぞ緊張したことでしょう。でも、ほし組の優しい指導のお陰で、最後までやり遂げることができました。もちろん、子どもたちにとって「できた」ということは大きな自信につながります。そういう経験を通して、4月には、ほし組の顔になっていきます。逆に、伝えていくほし組は、ゆっくりと、はな組に分かるように教えてあげていました。幼児にとって、何かを教え、分かるように伝えていくことは、難しいことです。自分でやってみせると、全部してしまうことになりかねないからです。一つ一つ言葉で伝え、方法を見せて、なおかつ、できるようにサポートしてあげる。それは、次代のほし組に幼稚園を託すことが分かっている年長児だからこそ大切なバトンタッチなのです。この日の誕生会で印象的だったのは、はな組以上に、ほし組の子どもたちが緊張していた姿です。それは、ほし組がはな組に伝えたことを、しっかりと受け止めてくれているのかを確認する時間だったからだと思います。お陰様でほし組の伝えたかったことは、はな組にしっかりと伝わっていたようです。それは、誕生会が終わってからの、ほし組の満足そうな表情からも、うかがい知ることができました。

また、先日ほし組は、自分たちより一学年先輩の小学1年生と交流する機会がありました。1年生の教室で、ランドセルに触れたり、片付け方を教えてもらったり、呼名されて大きく手を挙げて、返事をしたり、プリントを使って授業体験をさせてもらったり。年長児にとっては小学校生活に向けての貴重な体験だったと思います。教えてくれる1年生の中には去年のほし組さんの姿もありました。手渡す立場から手渡される立場へ。子どもたちの成長を感じさせてくれる一コマでした。



全員でジャンケン列車をしました

幼児教育で大切な「心を育てる」ことを、子どもたちが行動で示してくれているように思えます。子どもたちの育ちを、日常のいろいろな場面で見るとついで、感動や喜びを感じさせてくれます。修了・進級まで残り少ない時間を、しっかりと充実させていけるよう年度の締めくくりをしていきたいと思えます。また、最後になりますが、今年度も保護者の皆様、地域の皆様方には本園の教育活動に、多大なるご理解とご協力を賜りましたこと、この場を借りて感謝申し上げます。ありがとうございました。そして、令和5年度に55周年を迎えます、この根津幼稚園への益々のご支援・ご指導をどうぞよろしくお願い申し上げます。